



## 「天使」と「おかげさま」

ほぼ毎日更新中

校長 三村美延

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の波を受け、本校でも4つの学年で学年閉鎖を行いました。学校は感染予防にいつそう努め、学年をまたがる児童や教員の移動を最小限に減らしています。ご家庭と協力しながら残り少ない日々を充実させ、今年度を締めくくりたいと思います。

先日、知人から届いたカードに「一人の人間の一日には必ず一人『その日の天使』がついている。」という言葉が書かれていました。私は初めて聞く言葉でしたので調べてみると、中島らもさんのエッセイにある言葉のようでした。その天使は日によって様々な容姿をもって現れます。見えないことも多く、天使を見つけるためには心のもちようが大切なようです。それは、本校にいる「おかげさま」にも同じことが言えます。

「おかげさま」というのは、子どもたちの活躍を見守ってくれる新和小学校の神様のことです。どこにでも現れますが姿が見えないこともあります。「おかげさま」を見つけるには想像力と感謝の心をもち合わせていないと難しいのです。

見つけやすい「おかげさま」として学習ボランティアが挙げられます。本年度は新たに「お習字ボランティア\*1」と「ミシンボランティア」の方が加わってくださいました。図書ボランティア「かんがる〜」もメンバーが増え、教育活動がいつそう充実いたしました。そのほか、青少年育成会岩槻区新和地区会からは「バルーンリリース\*2」という思い出をプレゼントしてもらいました。真っ青な空をみんなで見上げたことは、いつまでも心に残ることでしょう。校外でも多くのご支援をいただきました。交通指導員さんや防犯ボランティアさん、PTAの方々の大勢の見守りのおかげで、子どもたちは安全に登下校できました。

こうしたたくさんのおかげさまを子どもたちはいくつ見つけることができるのでしょうか。3月の生活目標は「感謝の気持ちを込めて行動しよう」です。感謝の心で「おかげさま」を見つけ、その心を態度に表せるようにしたいものです。

学校にとっての最大の「おかげさま」は保護者の皆様です。感染対策による様々な変更に対応いただいたことも、毎日の宿題や提出物の確認をしていただいたことも、そして、子どもたちが毎朝、元気に起きて家を出られるようにしてくださっていることも、すべて「おかげさま」です。そうして登校してきた子どもたちが私や教職員にとっての「天使」なのだと思えます。

本年度の学校だよりは今号で最後となります。学校に関わってくださいました全ての方に心から感謝申し上げます、少々早くはありますが、本年度最後のあいさつとさせていただきます。一年間ありがとうございました。引き続き、応援をよろしく願います。

\*1 書きぞめ学習の期間、指導の補助をいただきました。現在、1・2年生の作品とさいたま市書きぞめ展覧会出品作品を、ユニクス浦和美園店に展示しています。是非ご覧ください。(3月半ばまで)

\*2 先日、家庭数で配付したバルーンリリースの写真はPTAからのものです。